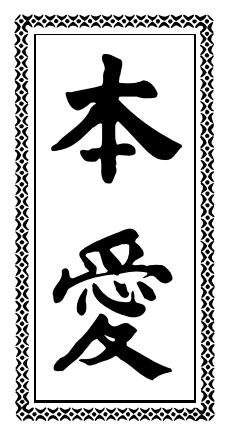


本部月次祭に教会長が昇殿参拝

6 月月次祭を皮切りに、各地の教会長が順次参拝へ

新型コロナウイルス感染拡大を受けて、本部月次祭の参拝を控えるよう促されてきたが、「緊急事態宣言」の解除や移動自粛の緩和を受けて、教会長の昇殿参拝が発表された。



発行
天理教本愛大教会
〒453-0821
名古屋市中村区大宮町 1-60
TEL (052) 461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町 19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広 報 部

活動目標
喜びの旬
おたすけの日々
楽しみの道

新型コロナウイルスの日本国内での感染拡大を受けて、外出や集会の自粛が呼び掛けられ始めたのが、今年 2 月ごろのこと。2 月末には全国の学校の一斉休校やイベントの自粛などの要請が行われ、4 月 16 日には国が「緊急事態宣言」を发出するに至った。

こうした流れを受けて、本部の行事等も次々と中止が発表された。3 月の学生生徒修養会・大学の部や春の学生おぢばがえり、4 月の婦人会総会や全教一斉ひのきしんデー、夏のこどもおぢばがえり。そんな中、本部の祭典日についても、3 月月次祭から一般のようによく信者の参拝を控えるよう、要請されることになっ

た。以降、5 月の月次祭まで、直属教会長と教区長が代表して参拝するという形で勤められてきた。

こうした中、「緊急事態宣言」が 5 月 25 日までに全国的に解除され、6 月 19 日には都道府県をまたぐ移動の自粛も緩和されるなどしたことから、各地の教会長が順次昇殿参拝できるようになる旨が発表された。

まず 6 月月次祭で、奈良教区管内の教会長が参拝。これを皮切りに、各地の教会長が年内に一度ずつ、大祭を含めた本部月次祭に、昇殿して参拝する予定となっている。

これは本部月次祭を本来あるべき姿へと戻していくための取り組みの一環であ

るが、以前のように賑やかな本部月次祭参拝の姿を再びお見せいただくためには、全教が心を一つに揃えてこの大節を乗り越えていかなければならない。

そのためにも、まずはようよく信者一人ひとりが、心寄せ、それぞれが国々所々でおつとめを勤めさせていこう。

7 月からは、祭典日を除いた土曜・日曜・祝日に、正午から本部神殿で拍子木を入れたおつとめを勤めていただいている。また、大教会では 8 月入社祭から、従来の形で祭典を勤めていきたいと発表されている。もちろん必要以上の「密」で、周囲の方を不安にさせるようなことは避けなければいけないが、心だけでなく、皆で手をそろえて勤める機会も徐々にお与えいただいている。そうした機会もできるだけ活用させていただきたい。

入社祭	8 月のこよみ
祭典終了後、教会長連絡会	1 日 午前 10 時
青年会例会	1 日 午前 10 時
よふき会例会	2 日 午前 10 時
月次祭	13 日 午前 10 時
布教実修所	14 日 午前 10 時
女子青年例会	16 日 午前 9 時 50 分
むつみ会例会	16 日 午前 10 時
婦人会例会	20 日 午前 10 時
本部月次祭	26 日 午前 9 時

寄稿

海外教友のいま

本愛アトランタ教会

新型コロナウイルスの感染者は世界全体で計1千万人を超え、各国に拠点を置く本教の教会にも大きな影響を及ぼしている。本愛につながる海外教会に、現在の状況とこれまでの取り組みについて寄稿してもらった。

アメリカ・ジョージア州では、7月24日の時点で州内の新型コロナウイルス感染者数が16万1千420人になり、今日も1日で4千813人増えました。ジョージア州はアメリカの中でも早々と経済活動を再開しました。その結果かどうか分かりませんが、最近はまだ感染者数が毎日3〜4千人ずつ増えています。

そんな中でも、おかげさまで私共の教会につながっておられる方、その方々のご家族も皆元気に過ごしております。



坂倉慶治会長(左)と毅哉氏(5月10日、坂倉理恵氏撮影)

アメリカ・ジョージア州 中には、買い物に行く回数なるべく減らしたり、買ってきた物を棚や冷蔵庫にしまう前に消毒しながら袋から取り出したり、旦那さんが外から帰ってきたらまずシャワーに入ってもら

い、着ていた洋服は熱湯に漬けるというように徹底した対策をしていた方もいました。ただ、そうしたことも経済が動き出してからは落ち着いたようです。

もともとアメリカでは医療現場などを除いてマスクをする習慣はなく、感染が拡大した後もしばらくはマスクをせずに生活する人も多くいましたが、最近はややく皆マスクを着けるようになりました。

今年の4月は、会長と私、娘家族の皆で教祖誕生祭に合わせおぢばがえりをするのを楽しみにしていました。教祖にお喜びいただきたい、私たちがアメリカに送り出してくださいといった親々に喜んでいただきたいという思いでこれまでおぢばがえりをしてきましたが、今回は親神様がお止めになりました。

また、「密」を避けるために、アメリカ伝道庁に

做って、当教会の月次祭も4月からの4カ月間は会長と私、後継者夫婦、娘夫婦のみで勤めさせていただきました。信者さん方が月次祭に参拝するということも、親神様はお止めになったのかもしれない。

この点に込められた神様の思召は何だろうと思案をしますに、私たち一人ひとりが、今までのおつとめに対する姿勢を振り返り、真剣に真心を込めて勤めなければならぬと感じます。人に会うこと、行きたい所に行くこと、当たり前だと思っていたこれら一切が、親神様のお働きあつてこそと、今さらながら気づき、あらためてかしの・かりもの理の尊さを強く感じています。

日々頂戴するご守護の数々を心に刻みながら、心明るく過ごしたいと思えます。(坂倉理恵・本愛アトランタ教会長夫人)

青年会
オンラインで
おはなし会開催

本愛分会は7月11日、敷島、中野の両分会と合同で「オンラインおはなし交換会」を開催。21人が参加した。

これは、青年会員層が講話や感話をする機会をつくるとともに、急速に広がるウェブ会議システムを使ったおはなし会のあり方を模索することを目的に、3分会が合同で企画したものだ。

当日はウェブ会議ツール「ズーム」を使って、清水一弘(敷島分会)、高木善成(中野分会)、檜崎優(本愛分会)の3氏が、「私がコロナで学んだこと」と題して話した。

台湾をはじめ、各地からスマートフォンなどを使ってその模様を視聴した参加者たちは、交換会後に振り返りを行い、遠隔で交流を深め合った。

教理随想

言わん言えんの理を探る



親神様は折々の出来事に際し、おさしづで心の持ち方や運び方をご教示くださっています。一例を挙げてみましょう。

明治三十三年

四月、天理教として初めての学校である天理校がおぢばに開設されました。当時は「学者金持ち後回し、道に学問いらん」という風潮がありましたが、将来を見据えた初代真柱様のご英断によって学校設立が推進され、天理教校の開設へと至ったのです。その開校式を行う時、親神様から次のようなお言葉があり

ました。道の上の世界という。世界道理も無けにやならん。その理の成つて来る元が無けにやならん。その元を心に含んで、無けにやならんものは無けにやならん。

(明治33年3月30日)

「世界道理も無けにやならん」とは、将来の天理教師を養成する機関の必要性を認めてくださり、学校設置を促しておられることを意味しています。けれども大切なことは、「その理の成つて来る元」を決して忘れてはならないという点であります。

元とは何でしょうか。それは、人間とこの世界は親神様によって創られ、親神様は今も世界一れつをたすけたいと思召されているという事実であります。私たちは日々の暮らしの中で、世間に合わせて通ることとはよくあります。たとえば会社に勤めている人が、教会の月次祭に会社を休もうと思っても、それはたいへん難しいことに違いありません。ですから、たとえ月次祭に参拝できなくても、親神様は一概にそれを否定されることはないでしょう。けれども先述のおさしづにあるように、会社に勤めているという事実の「元」を考えることを親神様は望んでおられるのです。すなわち健康であればこそ会社に行ける。病気になったり大きな事情が起きれば会社

にもいけない。親神様のご守護があればこそ会社に行つて仕事ができる。これが元であります。

■神の理を立てる

この元を忘れると、会社に勤めているのだから月次祭に参拝できないのは当たり前だとか、給料で生計を立てているのだから休めるはずがない、などという本末転倒の考えが出てきてしまいます。これではいくら信仰の年限を重ねても、真実を受け取つていただくことはできません。

そうではなく、祭典が終わつてもその一日は月次祭と考えて、仕事や用事を済ませてから参拝してお礼を申し上げるとか、別の日に大教会やおぢばに参拝させてもらうという前向きな心を持ちたいもので、「神の理を立てる」とはこの誠実をいうのであります。コロナ禍は相変わらず収

束の気配が見えず、世の中では感染拡大を防ぐために生活様式を変える努力が求められています。また教内でも密集を避けるために諸活動の中止が相次いでいます。これはやむを得ないことで、今後もしばらく続いていくでしょう。

このように時代や環境の変化に伴つて変えていくべきものもありますが、一方で変えてはならないものがあります。それを教祖は、「順序一つが天の理」とお教えくださいました。

親神様によって人間が創られ、そのご守護によって今、私たちが生かされている事実。この元の働きと順序を忘れて、自分中心に事を進めようとするとところに身上や事情の種が芽生えてきてしまうのであります。いついかなる場合でも元を

【第 68 回】

天の理に沿う誠の道は、元を忘れず順序を外さず

忘れず、順序を外さず、「天の理」を中心に据えて日々を歩んでいきましょう。

事情おはこび
(令和2年6月26日付)

本心分教会

◎神殿増築願

修養科生教養掛

第948期

4月 大橋善太郎(本美幸)

安藤美恵子(本則武)

5月 花井 啓次(本耕水)

杉下一二美(本愛岐)

6月 村松 正章(本心宮)

種田 里恵(本西春)

右の各氏が教養掛を務めた。

第104回教会長資格検定

修了者

(令和2年7月17日付)

本 徳 相原 知宏

以上1名

修養科第948期修了者

本 築(本清愛) 山下あやか

本 穂 長坂 泰彦

本 耕(本耕愛) 澁谷 昌美
本 正行 水野 和仁
以上4名

6月のおさづけの理拝戴者

本 穂 浅井 沙帆

本 心(本心光)

サテイラ ワルター

本美郷 和田 龍治
以上3名

6月の中席者数

(7月20日提出分まで)

本 心 1 以上1名

6月の初席者

本 穂(本正順) 糸見 喜来

本 仁愛 伊藤 由華

本 理愛 門田 育美
以上3名

陽気ぐらしのキーワード

感謝

慎み

たすけあい

大教会日誌

令和2年6月25日～令和2年7月24日

6月

25日 修養科志願者面接(於・本愛詰所)

26日 本部月次祭

30日 常任役員会議◇役員会議

13日 月次祭

祭 主・大教会長 扨者・松原友治、桑子 保

指図方・佐藤幸夫 賛者・出口邦郎、野田正樹

◇祭典講話—山田雅之

◇大教会長挨拶

7月

1日 入社祭

祭 主・大教会長 扨者・田中新一、松浦道太郎

指図方・出口道男 賛者・坂倉敏男、大池美公雄

2日 よふき会例会

おつとめ・十二下りてをどり

4日 女子青年例会

11日 青年会オンラインおはなし交換会

12日 常任役員会議

14日 布教実修所

おはなし会

16日 むつみ会例会

17日 こども食堂MOGU(参加者26名)

18日 こはる会例会

20日 婦人会例会

おつとめ・十二下りてをどり